

千曲市の将来ビジョンをSociety5.0型地域社会として実現する 住民参加コミュニケーション事業

A.地方創生として目指す将来像-----

市の将来像として「人をてらす 人はぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～」を総合計画において掲げ、

- ・人をてらす＝誰ひとり取り残さないコミュニケーションによって
 - ・人はぐくむ＝健康な暮らしができる教育、福祉、交通、防災・減災、商工環境を実現し、
 - ・人がつながる＝住民同士、住民と行政など人同士がつながるコミュニケーションを常に拡充させてゆく
- 上記の環境によって、GIGAスクールに対応する個別最適な学びと協働的な学びを実現することから、起業をはじめとする新しい挑戦を地域を挙げて支援し、そこから新しい雇用や経済が生まれ、その環境に惹かれる人々が移住や関係住民、観光等の形で地域と関わることのできる新しい好循環を戦略的に運営できるSociety5.0型地域社会を目指している。

B.地方創生の実現における構造的な課題-----

市の将来像の環境に不可欠な”住民同士、住民と行政など人同士がつながるコミュニケーション”が困難であることが千曲市における構造的な課題である。

従来の広報・公聴のコミュニケーションは一方通行、一時的であり、住民の認識ギャップ（事象についての知識の多寡など）を埋めることもできないため、住民参加のもとでデータ・ファクトに基づく意思形成を行えない。また、住民の視点に立つと、自分以外の人々の考えを知る機会はほとんど無く、意思表示の機会も限られている。GIGAスクールにおいては、その目的である”個別最適な学び協働的な学びを実現する”ために、児童・生徒、教職員、保護者、地域の人々が現在の学びの環境がどのようなものかを認識し、その上で私はこう学びたい、こう教えたいという意思表示、共通目標の構築が求められるが、既存の方法では技術的に対応が極めて困難である。このような構造的な課題が、地域の戦略的経営、課題解決、住民参加の困難さを生み、地方創生を妨げている。この困難さは、Society5.0（人＝住民中心の社会を目指す）への対応にとっても課題である。

C.交付対象事業の概要-----

千曲市の将来像に不可欠な要素である”人がつながる”コミュニケーションを、教育（GIGAスクール）、産業振興、防災・減災、人口減少対策、交通の各政策領域に実装、運用し、政策間連携を行うことで市の将来像を実現に近づけるとともに、Society5.0に対応する未来技術を活用した新たな地域社会システムを全国に先駆けて実現する。本事業で活用する未来技術とは、特許に基づくオンライン学習型輿論及び意思形成技術であり『ポリネコ!』という名称を与えられているものである。

この『ポリネコ!』により、千曲市の小中学校の児童・生徒、教職員、及び保護者を合わせた約12600人を対象に千曲市とデータたファクトを踏まえ双方向で継続的につなぎ、千曲市にGIGAスクールが目指している”全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び”の環境を実現する。

小中学生をはじめとする次世代層の個別最適な学びのニーズを把握することで、起業や仕事、留学などのニーズも同時に把握できるようになり、地域の産業振興政策と連携した次世代支援を可能にする。また、ヤングケアラーや貧困などの把握も行いやすくなることで福祉政策とも連携を行う。

また、GIGAスクールを入り口に、千曲市役所と人口の約20%にあたる1万人以上の市民が双方向かつ継続的につながるようになることを基盤に、地域課題に関わる個々人の認識を継続的に把握できるようになることで、従来よりも格段に精度の高い防災・減災への対応を策定、浸透させられるようになる。

なお、回答参加者は毎年の卒業生、入学生とその保護者も含むため、増え続ける。

従来の広報・公聴政策とも連携し、世帯単位ではなく、個人単位での認識、輿論を市役所と常に示し合うことで、”サイバーとフィジカルを高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会”=Society5.0を地方創生の文脈に基づき千曲市で実現する。

D.交付対象事業が構造的な問題の解決に寄与する理由-----

本事業は、千曲市の目指す将来像、地方創生、Society5.0の実現を困難にするコミュニケーションの構造的な問題を、独自の未来技術『ポリネコ!』を活用することで解決するものである。

『ポリネコ!』は、地域や社会の課題に関わるデータ・ファクトを知り、学び、考えた上で意思表示し、その結果を他の住民（関係住民を含む）や有識者、議会議員の意思とも相互参照することで個人とコミュニティにとっての納得解と最適解を両立する意思形成、合意形成を可能にする。

この『ポリネコ!』が千曲市の各政策をつなぐコミュニケーションシステムとして実装されることで、千曲市の目指す将来像が確実に実現に近づく。

また、本事業が実績を上げることができれば、日本各地にコミュニケーションの仕組みを拡大可能である。

広報・公聴の機能不全は従前から指摘されており、データ・ファクトに基づく意思形成は各地で事例がない、この点から、本事業で得られる運用経験は、日本各地の地方創生、Society5.0社会の実現に大きく寄与する。

KPI①（アウトカムベースで、複数年度を通じて評価指標としてふさわしいもの）
本事業への参加者 1.千曲市におけるGIGAスクール環境の実現に参加する市民の人数

KPI②
本事業への参加者 2.千曲市において、防災を始めとする地域課題について、データやファクトを踏まえた意思表示を継続的に見える市民の人数

KPI③
本事業への参加者 3.千曲市において、防災を始めとする地域課題について、データやファクトを踏まえた意思表示を継続的に見える関係住民の人数

KPI④
本事業によって実現する千曲市のビジョン、地域課題に関わる意思形成の件数

設定したKPIが複数年にわたって費用対効果を計測するのに適している理由

①～③は、参加者数が増えることが千曲市の将来像の具現化（同時に、地方創生、Society5.0の千曲市での具現化）への参画する市民が増えることを意味するため本事業の費用対効果を計測するのに適していると言える。
また④は、さまざまな立場の参加者が、意思表示を相互に行い成果に結びつけた件数であり、参加者の利用が頻繁になり、運用経験が向上することと相関があるといえるので費用対効果を計測するのに適しているといえる。
量（①-③）と質（④）の両面でKPIを取ることで本事業の費用対効果を確実に把握する。

工程表

区分	事業等の名称（番号）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度
支援 措置	・地方創生推進交付金【A3007】											Society5.0に対応した住民参加コミュニケーションによる 千曲市の将来像の具現化
		千曲市の将来ビジョンをSociety5.0型地域社会として実現する住民参加コミュニケーション事業 <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクールを実現するコミュニケーション事業 ・学校ごとのビジョンを構築する事業 ・GIGAスクールと福祉、産業振興と連携させる事業 ・次世代層の意見を地域経営に繋げる若者議会事業 		千曲市の将来ビジョンをSociety5.0型地域社会として実現する住民参加コミュニケーション事業 （これまでの展開に加えて） <ul style="list-style-type: none"> ・地域ビジョンの策定事業 ・防災・減災計画を個々人の回答参加結果から協業して策定する事業 ・交通政策を個々人の回答参加結果から協業して策定する事業 ・関係住民への参加 ・回答参加と地域ポイントを連携させる事業 				千曲市の将来ビジョンをSociety5.0型地域社会として実現する住民参加コミュニケーション事業 （これまでの展開に加えて） <ul style="list-style-type: none"> ・住民参加コミュニケーションの条例化 				
	≪田園都市構想（仮）≫											
関連 事業	○○事業 ≪関連事業なしの場合、この行は削除してください≫											
	○○事業 ≪関連事業なしの場合、この行は削除してください≫											

注： 1) 区分の欄の「支援措置」は、地域再生計画の支援措置に係るもの